

第48回 百周年記念史誌部会議事録

日時: 2010年4月28日(水) 16時10分～17時15分

場所: 管理棟2階 第一応接室

出席者: 横山孝男部会長、松田則男、栗野宏、小山明夫、新関久一、大町竜哉、神戸士郎、奥山澄夫、小池邦博、高畑保之、綿貫藤雄、片山政弘、山崎洋一郎各委員、小室秀一編纂室員、斎藤ひろみ編纂室補助員、小関栄助氏、

【配布資料】

- [資料 48-1] 第47回部会(3月)以降の経過報告および今後の予定 [A4/1頁]
- [資料 48-2] 「今月の話題」「米沢から地球環境問題へ」多賀谷英幸 [A4/2頁]
- [資料 48-3] 生体センシング部局史 [A4/11頁]
- [資料 48-4] ものづくり技術経営学専攻(部局史) [A4/5頁]
- [資料 48-5] 共通講座の歩(共通講座部局史) [A4/10頁]
- [資料 48-6] 組織史 第6編 事務部の歴史 [A4/8頁]
- [資料 48-7] 工学部通史執筆進捗状況 2010.4.28 百年史誌編纂室 [A4/1頁]
- [資料 48-8] 部局史進捗状況一覧(2010.4.28現在) [A4/1頁]
- [資料 48-9] 百年史(ヒストリー)の再構成 2010.4.28 栗野 宏 [A3/1枚]
- [資料 48-10] 化学遺産認定 第1回 [A3/1枚]

I) 報告&連絡事項

1. 斎藤ひろみ編纂室補助員からホームページの更新に関する報告があった。
 - (1) 横山道央教員の今月の話題を掲載・公開した。

II) 協議事項

1. 百周年記念誌
 - ① 記念誌に関して、松田記念誌班長から資料48-1に基づき経過報告があった。前回の部会(3月17日)からの経過報告があり、表紙の変更などについて説明があった。
 - ② 5月4日の記念式典での記念誌配布の準備作業について、横山部会長から説明があった。記念式典の前日である5月3日の13時30分から予定している。協力いただける部会員として、小池委員、松田委員、神戸委員、大町委員、新関委員の名前が挙げられた。式典の当日は大町委員など式典部会からの指示に従い作業を行う。
2. 百年史
 - ① 今月の話題について、高畑委員から資料48-2に基づき、多賀谷教員から原稿が寄せられたとの報告があった。
 - ② 部局史の進捗状況について、栗野委員から資料48-8に基づき報告があった。
 - 1). 生体センシング部局史に関して、神戸委員から2010年の情報を加え、一部修正した旨、報告があった(資料48-3)
 - 2). MOTに関して 野長瀬教員から原稿が届いている(資料48-4)。
 - 3). 共通講座に関して、小池委員から報告があった(資料48-5)。
 - 4). 事務部の組織史に関して、資料48-6に基づき、報告があった。
 - 5). 電気電子情報系から、原稿が完成しており、次回、配布する旨、報告があった。
 - ③ 小室編纂室員から通史の執筆進捗状況について、説明があった。
 - 1). 奥山委員から「10章 入試過誤」の「10.3 入試業務の改革」ならびに「10.4 この時代のトピックス」に関して東山教員に5月中旬を目安に原稿提出の依頼をしている旨、報告があった。
 - ④ 百年史(ヒストリー)の再構成について栗野委員から資料48-9に基づき説明があった。

- 1). 従来の通史ならびに部局史の構成に加え、横山部会長、小関氏、小室編纂室員の調査や研究結果を反映させたい。また、「今月の話題」のコラムとして、ヒストリーに含めたい。
 - 2). そこで、巻頭に総括論文を掲載したい。
 - 3). 資料48-9に通史ならびに部局史を列記した。全体の構成が把握できるものと考えられる。MOTはセンシングの後に、工業会は最後に持ってきた。
 - 4). 横山部会長から、小関委員の大竹多氣初代校長研究の掲載場所について質問があり、栗野委員から今後検討したい旨、回答があった。
 - 5). 横山部会長から、記念誌をまとめてきた作業の中で新たに発見された事実もあり、また構成ならびに編集方針から、記念誌には掲載できなかったものがたくさんある。そこで、それらの情報をまとめ、百年史本巻の部分とは別の形になっても良いので百年史を充実させたい旨、説明があった。
 - 6). 青春の詩の歴史的経緯に関しては渡辺克実先生が調査を進めている。
 - 7). また、数人の教員からも執筆したい旨、申し出ている。
 - 8). また、大学で行われた研究成果の視点からも百年史にまとめることについて検討するよう、横山部会長から提案された。
- ⑤ その他
- 1). 栗野委員から資料48-10に基づき、日本化学会の認定事業である、第一回化学遺産認定第005号に「ビスコース法レーヨン工業の発祥を示す資料」として、旧米沢高等工業学校関連の資料が認定されたことの紹介があった。
 - 2). ビスコース法レーヨンに関する特許の取得について、質問が出された。

III) その他

1. バーチャルミュージアムを含む学内資料室の件

- ① 最初に、横山部会長から学内資料室の件に関して、以下の趣旨説明があった。
 1. 大竹多氣先生に関する研究・調査に伴い、大竹先生の遺品など記念物の受け入れる方向性と可能性が現れてきた。
 2. しかし、本学部には歴史的記念物品の受け入れ体制は無く、その整備が必要である。
 3. 現在は百年史に関連させて百周年記念史誌編纂室で受け入れると表明しているが、一時的な対応であり、恒久的な受け入れ体制の確立が求められている。
 4. 大竹先生の遺品に関して米竹米沢図書館長の一室を大竹記念室として収蔵・展示スペースに転用する方向で話を進めている。
 5. この機会に学部長に記念物品の受け入れ体制の確立を提案することは本部会の任務であると考える。
 6. そこで、中心的な班を作って、提案を進めたい。
- ② 小山委員から、バーチャルミュージアムはひとつの研究となるくらい大きな仕事であり。この部会でプロトタイプを作ることも大変な作業となると考える。もし本格的に稼働させるならば、事務部でひとつのセクションができるくらいの仕事量になる。従って、史誌部会で片手間にできるものではないと考える、との意見が出された。
- ③ 横山部会長から、史誌部会が記念誌ならびに百年史を制作するにあたり、学外から記念物品寄贈の話や要望が挙げられてきている。ここで大学や学部で史誌部会からこのような提案をすることは重要な任務と考える。従って記念誌や百年史と同じように部会全体で対応する。具体的にはワーキンググループを立ちあげて、どういう形で受け入れ、後世に残せば良いのかといった提案をまとめてほしい、との説明があった。
- ④ 新関委員から重要文化財の中に収蔵し、また展示を行うことは難しいのか、との質問が出され、横山部会長から、重要文化財には場所がない事、耐火構造では無い事など収蔵庫としては不十分であり、そのため図書館と協議・検討しているとの回答があった。
- ⑤ 大町委員から、目的は収蔵か閲覧かとの質問が出され、横山部会長から、両方である、収蔵庫が無いと展示もできない、どちらかという収蔵庫の役割が大きいと考える、との回答があった。

- ⑥ 大町委員から、百年記念館は新しい建築物であるから耐火構造はクリア出来ているだろう、記念館の中に、そのようなスペースを設けられないか、との提案がなされ、横山部会長から、展示としていいだろう、空調も整っているのでカビなどを避けることができる、との回答があった。
- ⑦ 大町委員から、その場合、図書館を収蔵庫にして、百年記念館を展示に、との意見が出された。
- ⑧ 横山部会長から、学部に記念物の受け入れ体制を確保するよう要請したい、その記念物受け入れ検討班の中心に神戸委員ならびに奥山委員になっていただきたい旨、要請がなされた。会議終了前に、小山委員が追加された。
- ⑨ 横山部会長から、これから 100 年を歩むならば、これからも様々な記念物品の寄贈の申し出が出てくるものと考えられる。記念物を受け入れる体制について、その提案のアイデアを史誌部会から提案したい。史誌部会は 2011 年の 3 月に百年史を出版してミッションを終える。それまでに恒久的な提案をまとめたい。
- ⑩ 大竹先生の遺品を中心に収蔵することを米竹米沢図書館長と相談し、図書館の一部をそれにあてることを史誌部会として学部に提案したい。しかし、収蔵庫の面積も限りがあるので、受け入れ規則を整備する必要がある。
- ⑪ 大竹先生の遺品に関してルールづくりを待ってられない状況にあるので、規則が定められる前、具体的には 2010 年の 10 月に行われる百周年記念の 2nd イベントまでに受け入れを開始したい。
- ⑫ 奥山委員から、ワーキンググループの目的は青写真を作ることにある、との確認の発言があった。
- ⑬ 小山委員から **Virtual Museum** は考えなくて良いのか、との発言があり、横山部会長から、ひとつのアイデアとして盛り込んでほしい旨、要望が出された。
- ⑭ 最近の博物館の傾向として、展示用に作ったものを展示し、オリジナルは収蔵しておく傾向にあるとの情報が寄せられた。一方、奥山委員からは、最近スペースがないからオリジナルのデータをとって、オリジナルそのものは捨てることもある、という情報提供もされた。
- ⑮ 横山部会長から東京大の **Virtual Museum** を参考にして欲しいと要望が出された。
- ⑯ 小関氏から以下のコメントが出された。
1. 大竹俊樹先生の気持ちとして、以前は大竹多氣先生の孫としてまとめようとされていたが、最近その資料を出しはじめた。
 2. その場合、資料の供出先を會津か米沢(工学部)かで迷っている面もあるようだ。公職者として工学部に寄贈してもらったほうが適切と考える。
 3. 大竹先生の父親の資料も出てきている。江戸時代の学者とのつながりがあり、テーマになる。これらの資料を受け入れることは、1 次資料の保管場所として、大事な場所になる。また、大竹多氣に影響を与えた父親の資料も保管できればなお良いと考える。
2. 松田記念誌班長から、以下の説明があった。
- ① 従来、本部会は「100 年史誌部会」と称していたが、今後は「百周年記念史誌部会」と称する。今回の記念誌の発刊に伴い、表記について種々検討した。その結果、「100 年」との表記は「百年」と漢字にすることが背表紙のデザイン上優れていること、また「記念」という文字を加えることが好ましい事となった。
3. 「記念誌」の慰労会・反省会について松田記念誌班長から説明があった。
- ① 「記念誌」の完成に伴い、慰労会・反省会を行いたい。5 月 22 日に予定している。後ほど、アナウンスをする。松田記念誌班長が取りまとめる。
4. 次回の部会について
次回の会議は 5 月 26 日 (水) 16 時 00 分から 第 1 応接室(予定) で開催の予定。